

白藤権八郎 (全二篇十二卷)

帝キ木 小阪映畫

脚色者  
監督者 (第一篇) 佃 血秋氏  
同 (第二篇) 森本 登良男氏  
撮影者 (第一篇) 長尾 史縁氏  
同 (第二篇) 谷口 禎氏  
唐澤 弘 光氏

主要役割

白藤権八郎 尾上 紋十郎氏  
魚屋松五郎 嵐 璃 徳氏  
松五郎女房お園 松枝 鶴子嬢  
笠原権之進 市川 瓢藏氏  
息 権三郎 市川百々之助氏  
雪 江 椿 惠美子嬢  
白 梅 津守 玉枝嬢  
青木丈左衛門 阪東 豊昇氏  
中山安兵衛 片岡 仁引氏  
夜道星三藏 市川 好之助氏  
小山田彌一郎 嵐 笑三氏

〔略筋。省略。〕

大阪朝日新聞に連載中の伯知師の講談を脚色したもので、小阪俳優の總出演の映畫である。譚りは徒らに主要人物計り多くて複雑であるのみで、従來の講談種より一歩も出ないものである。佃血秋氏の脚色は頗る苦勞した事であらうと察せられる、第一篇は平凡であるが第二篇はブツさ好く、殊にラストは正に氏好みて詩情豊かな情景を描き出している。第一篇の森本氏の監督の講談から受ける興味程度より出す、可成り倦意を覺はたが第二篇の長尾史縁氏の監督になつてからは、譚りも好くなつてゐるが、監督手法も優れてゐる事は争はれない。尾上紋十郎氏の白藤権八郎は主役ではあるがその性格が頗る不鮮明なのを客に引かない役であるが、氏の演出も不鮮明であるから云ふ事はない。市川百々之助の権二郎は大熱演で、第二篇に於る演技等若き熱なくしては出来ない事である。そ

の覇氣を賞して置く。その努力は充分観客の同情に依つて報ひられよう。其他ガールスターの助演振りは御苦勞。要するに講談本の持つ興味と價値をその儘映畫化した様な作品である。故に娛樂價値は充分ある。

(十月四日 第一篇) 十月十一日 (第二篇) 大阪廬 (邊劇場封切) 山本 綠葉